

「小川小学校創立150周年その2」

小川小学校は1873（明治6）年、小川八幡神社の境内にあった神宮寺がスタートでした。1903（明治36）年に校舎を新築しますが、その後、1933（昭和8）年3月、現在の地に移転するまでの間にもう一つ校舎がありました。

1904（明治37）年、日露戦争が始まった年です。『創立百周年記念同窓会誌』の小川小学校沿革概要によると、1月に小川尋常小学校は新校舎に移り開校式を行います。翌年の1905（明治38）年7月26日、大降雨のため小川村の河川は未曾有の大洪水となり、職員室・裁縫室・便所・湯沸室を除き、全教室が流失してしまいます。そのため、尋常科の教室を奥佐々（会議所）・坂本（薬師寺）・東福井（安養寺）の3か所に移し、分散授業をすることになりました。7年後の1912（明治45）年4月、ようやく新しい校舎が完成、移転します。その姿が右上の写真です。写真



には、昭和5年と添え書きがありました。写真の中央には、少し大きい木造瓦葺の校舎があります。白差しを避けるためでしょうか、小さなトタン屋根を付設しています。写真には見えませんが、左端方向に行くと小川八幡神社があります。小学校の跡地には、紀美野町役場小川出張所などが建てられました。小学校周辺には、商店や梅本郵便局も見えます。手前の斜面には、縄やたわしの原料となる棕櫚がびっしりと植えられています。校舎は3棟がコの字型に並び、その間に運動場が見えます。近くの商店の方は、この運動場で遊ぶ子どもたちの声を思い出し、懐かしそうに話してくれました。



小川小学校の150年の歴史の中でも大きな節目が、小川村にあったもう一つの小学校、梅中小学校との統合でした。梅中小学校は、1875（明治8）年、中田735番地の観蔵寺（のちの大観寺）につくられました。1930（昭和5）年、両校の合併が決まり、中田島5番地（現在の小学校の地）に移転することになりました。1933（昭和8）年に木造の新校舎が完成しました。1966（昭和41）年には鉄筋校舎となり、現在に至るのです。（令和5年5月10日）